

第6章 調査間の比較

第6章 調査間の比較

※本章は、一般市民調査、高校生調査、小中学生調査、幼児保護者調査の4つの調査で、類似した設問を抜粋し、比較したものである。

※設問によっては、<クロス集計等の概略や補足>についてとして、課題を取り出す趣旨で簡略化した文章も記述している。ただし、紙面の都合上、図表等は第2章から第5章の記載に委ねる。

1 食事・食生活について

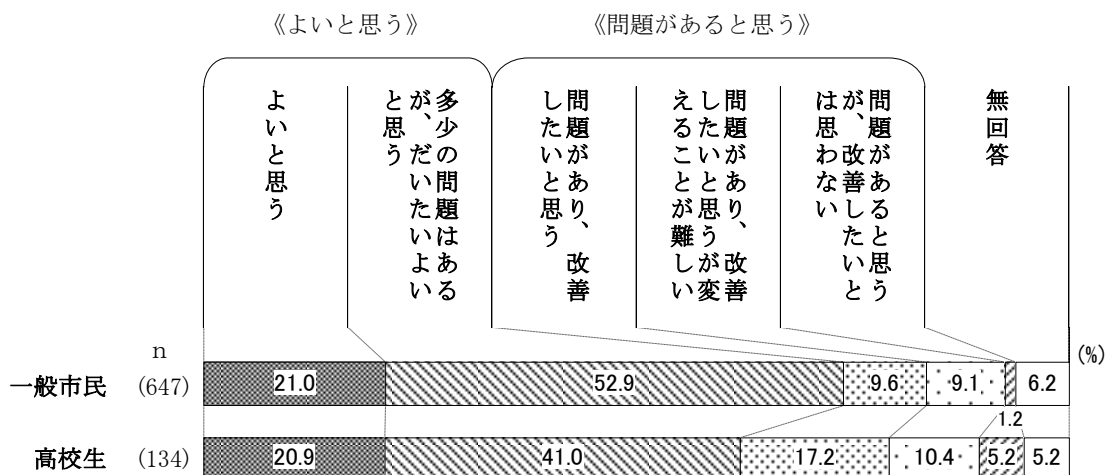
(1) 自分の食生活に対する感じ方

問 あなたは、自分の食生活についてどのように感じていますか。(○は1つだけ)

〔一般市民・高校生：問1〕

「多少の問題はあるが、だいたいよいと思う」は、一般市民の方が高校生よりも11.9ポイント高くなっている。《よいと思う》としてみると、一般市民は12.0ポイント上回る。一方、《問題があると思う》は、高校生が一般市民よりも12.9ポイント高い。(図表1-1)

<図表1-1> 自分の食生活に対する感じ方



<クロス集計等の概略や補足>

○若い世代は、食生活に問題があると感じている

- ・一般市民の性別による大きな違いはみられない。
- ・一般市民の年齢別では、《問題があると思う》が20～29歳で31.9%、30～39歳で30.8%、40～49歳で34.7%と高い。

○食育の関心を高めることがポイント

- ・一般市民の「よいと思う」という回答は、食育に“関心がある”人で29.8%と高い（高校生の食育に関心がある人は人数が少ないので参考：33.3%）。

○食習慣が整っていない人は、問題があると実感

- ・一般市民、高校生とも、概して、朝食や夕食を欠食していたり、野菜の摂取量が少ない人ほど、《問題があると思う》と感じている。

○問題があると思う人の問題点は、「食事の時間が不規則」、「栄養のバランスが悪い」など

- ・一般市民に比べて高校生がいずれも高い状況にあったが、双方の結果から問題点と高く認識されているのは、「食事の時間が不規則」、「栄養のバランスが悪い」。
- ・また、高校生が一般市民を大きく上回るのは、「食べないことがある」と「間食が多い」など。

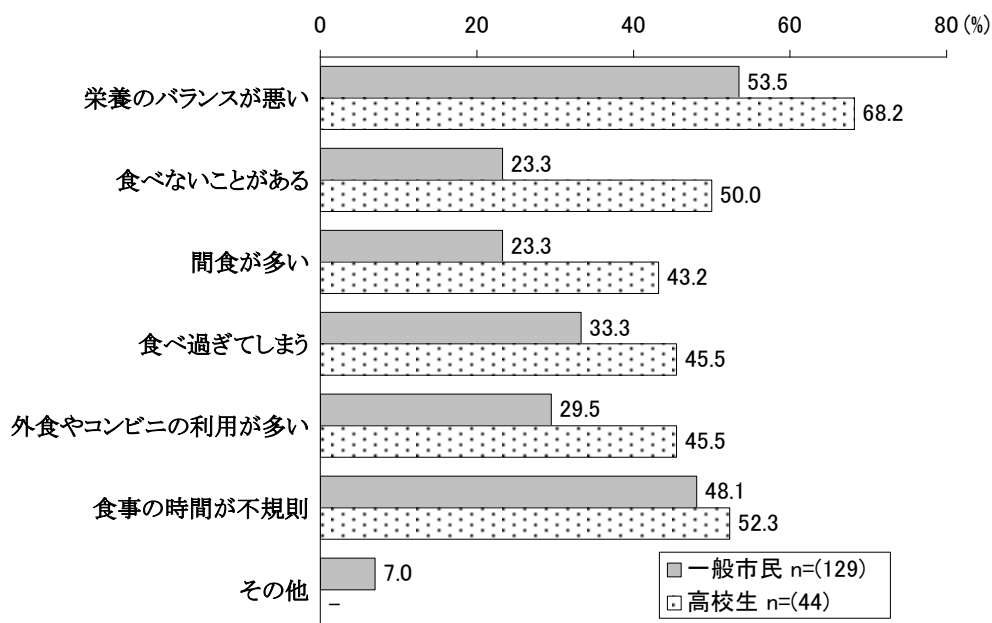
(2) 自分の食生活に問題がある点

問 あなたに問題があると思うのはどのような点ですか。(〇はいくつでも)

[一般市民・高校生：問1-1]

問題がある点をたずねた結果では、いずれも高校生の方が一般市民よりも高くなっている。違いが大きなものを列举すると、「食べないことがある」で26.7ポイント、「間食が多い」で19.9ポイント差などである。(図表1-2)

<図表1-2>問題がある点



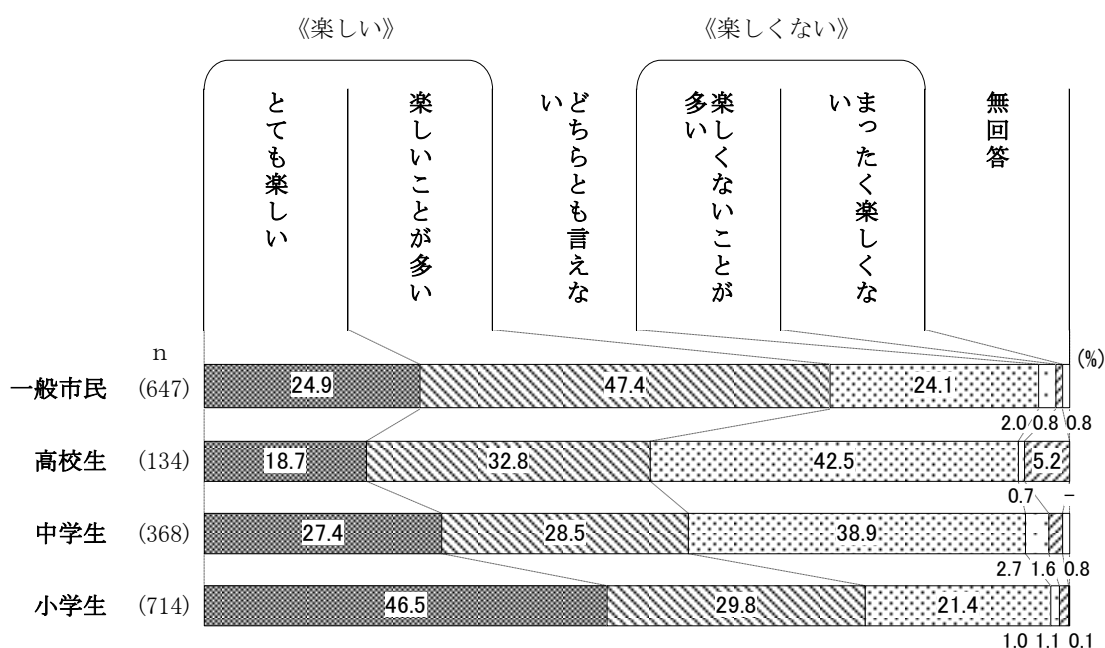
(3) 毎日の食事の楽しさ

問 あなたは、毎日の食事が楽しいですか。(〇は1つだけ)

[一般市民・高校生：問2 小・中学生：問7]

学齢期において小学生、中学生、高校生と学年が高くなるほど《楽しい》が低くなる。(図表1-3)

<図表1-3> 毎日の食事の楽しさ



<クロス集計等の概略や補足>

○中・高校生に食事の楽しさを感じてほしい

- ・一般市民の年齢別で、20歳代は《楽しい》が85.1%、30歳代は《楽しい》が76.5%。つまり、中学生、高校生の学齢期での低さが目立つ。

○一緒に食べるのが楽しさを向上

- ・一般市民、高校生では、家族や友人・同僚達と朝食を摂る頻度と夕食を摂る頻度をたずねている（回答結果241ページ参照）。その設問の回答状況をクロスしてみると、特に、夕食については、一般市民で一緒に食べる頻度が高い人ほど《楽しい》も高く、高校生ではほとんど毎日食べる人で《楽しい》が突出している。

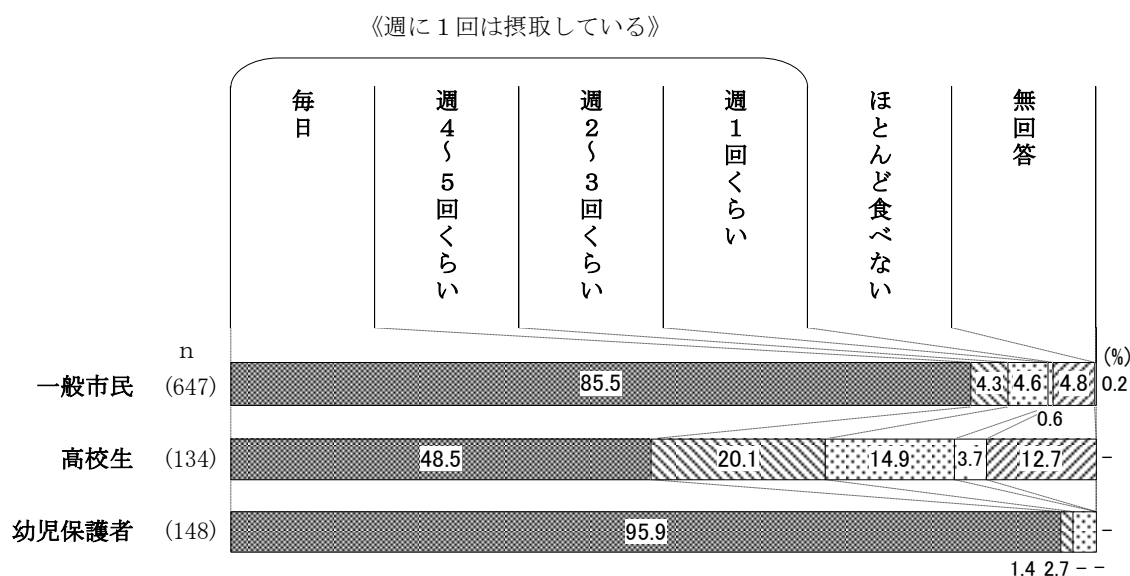
(4) 朝食の摂取状況

問 あなた（お子さん）は、朝食を食べていますか。（○は1つだけ）

〔一般市民・高校生：問3 幼児保護者：問1〕

「毎日」は高校生の摂取状況が他の対象に比べて低くなっている。そのため、「ほとんど食べない」が高校生で1割を超えている。（図表1-4）

<図表1-4> 朝食の摂取状況



<クロス集計等の概略や補足>

○「ほとんど食べない」は20歳~40歳代で約1割

- ・一般市民の性別による大きな違いはみられない。
- ・一般市民の年齢別では、「ほとんど食べない」が20~29歳で8.5%、30~39歳で7.4%、40~49歳で12.2%と約1割。40~49歳は、性/年齢別でも、男女ともに高い。

○高校生は性別に関わらず朝食の欠食が課題

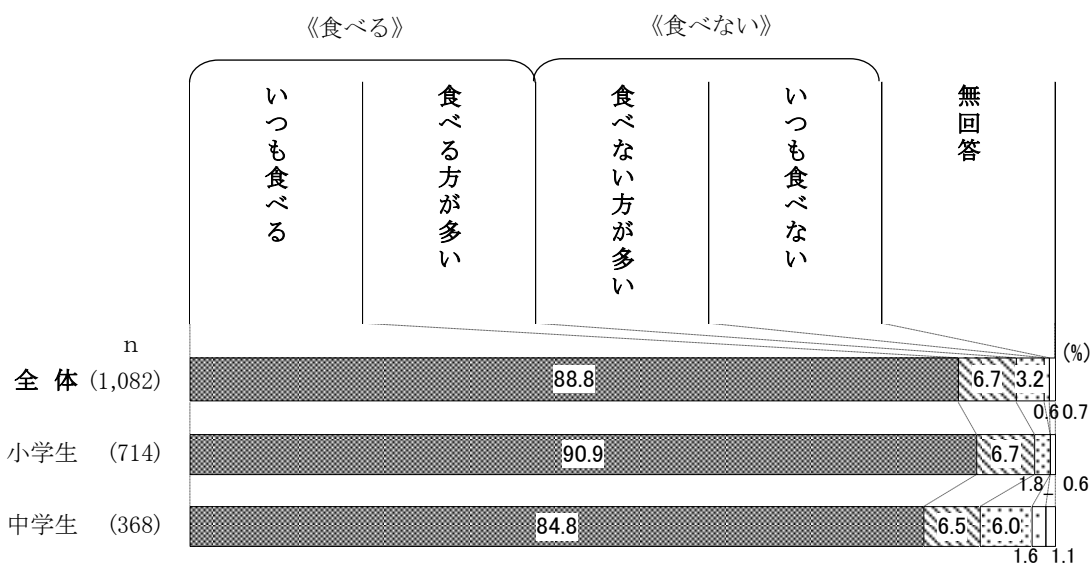
- ・高校生の性別では、一般市民と同様に大きな違いはみられないが、男女ともに欠食が1割を超えている。
- ・BMI別では、やせの人は人数が少ないので参考であるが、「ほとんど食べない」はやせで13.6%、標準でも14.0%。

とい 問 あなたは、朝食をいつも食べますか。(○は1つだけ)

[小学生・中学生：問10]

《食べる》は小学生が中学生を6.1ポイント上回り、逆に、《食べない》は中学生が5.8ポイント上回る。(図表1-5)

<図表1-5>朝食の摂取状況



<クロス集計等の概略や補足>
○小学生から中学生にかけての《食べない》状態を抑えたい

- 小学生、中学生の性別ともに大きな違いはみられない。つまり、中学生は男女ともに欠食が約1割である。
- 前ページの高校生の結果も含めて、中学生、高校生の学齢期における欠食状況の低減が必要。

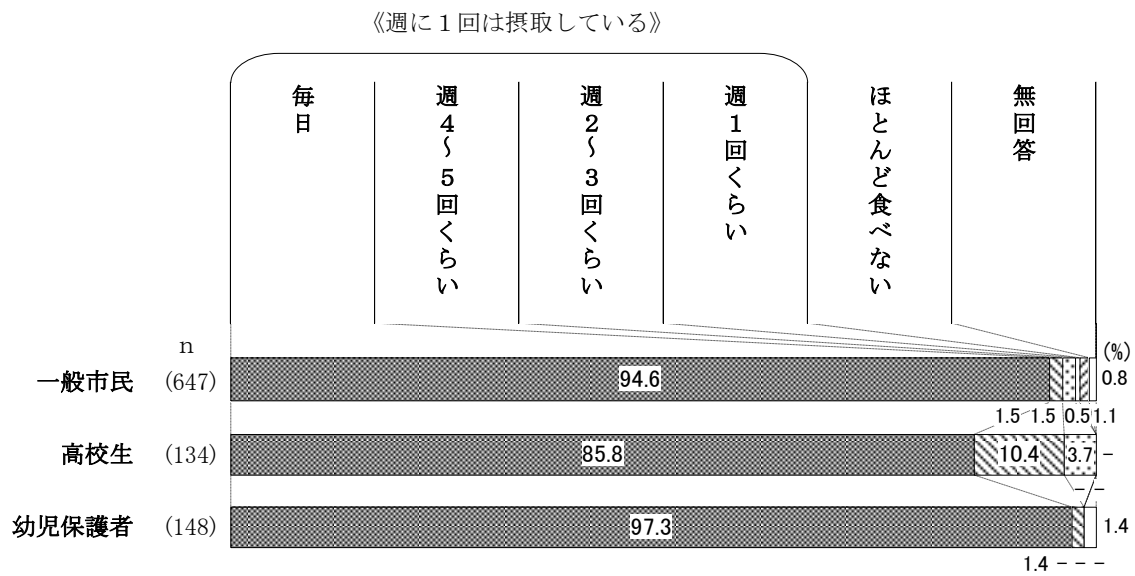
(5) 夕食の摂取状況

問 あなた（お子さん）は、夕食を食べていますか。（○は1つだけ）

[一般市民・高校生：問4 幼児保護者：問2]

いずれの対象でも「毎日」に比率は集中しているが、高校生で他の対象に比べて低い。（図表1-6）

<図表1-6> 夕食の摂取状況



(6) 食事の内容

問 あなた（お子さん）は、主にどのような朝食を食べますか。（〇はいくつでも）

〔一般市民・高校生：問3-1 小・中学生：問10-1 幼児保護者：問1-1〕

※小・中学生は「当日に朝食で食べたもの」

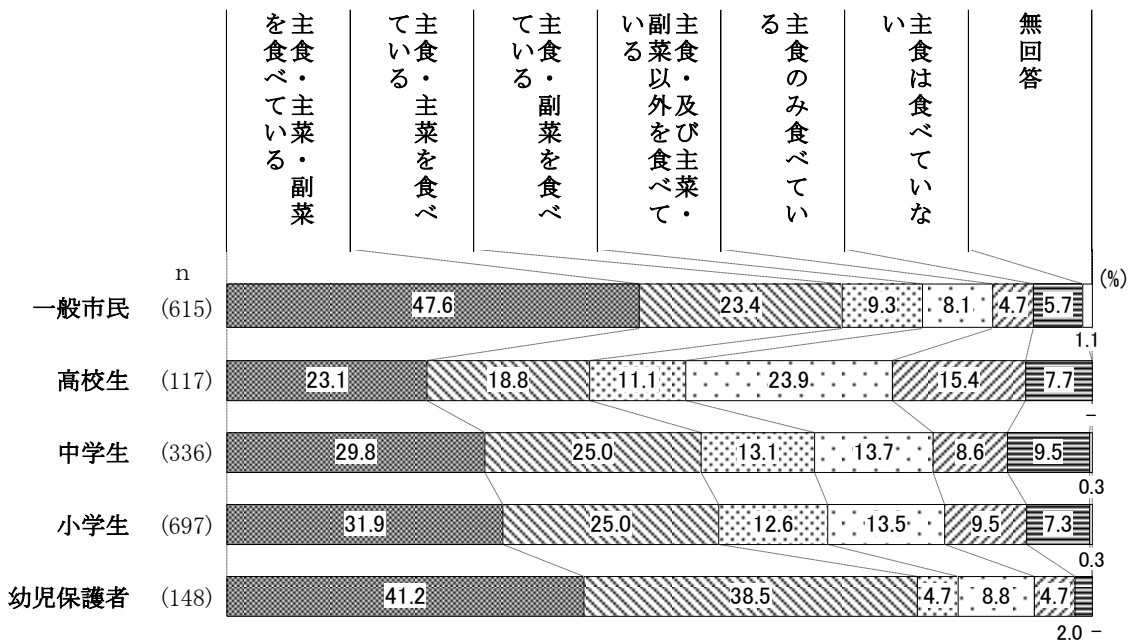
問 あなた（お子さん）は、主にどのような夕食を食べますか。（〇はいくつでも）

〔一般市民・高校生：問4-1 幼児保護者：問2-1〕

「主食・主菜・副菜を食べている」は、一般市民と幼児保護者では4割台と高く、小学生、中学生、高校生と学年が高くなるほど低くなっている。また、高校生は「主食・及び主菜・副菜以外を食べている」が23.9%で他の対象よりも高い。（図表1-7）

■ 主に食べている朝食

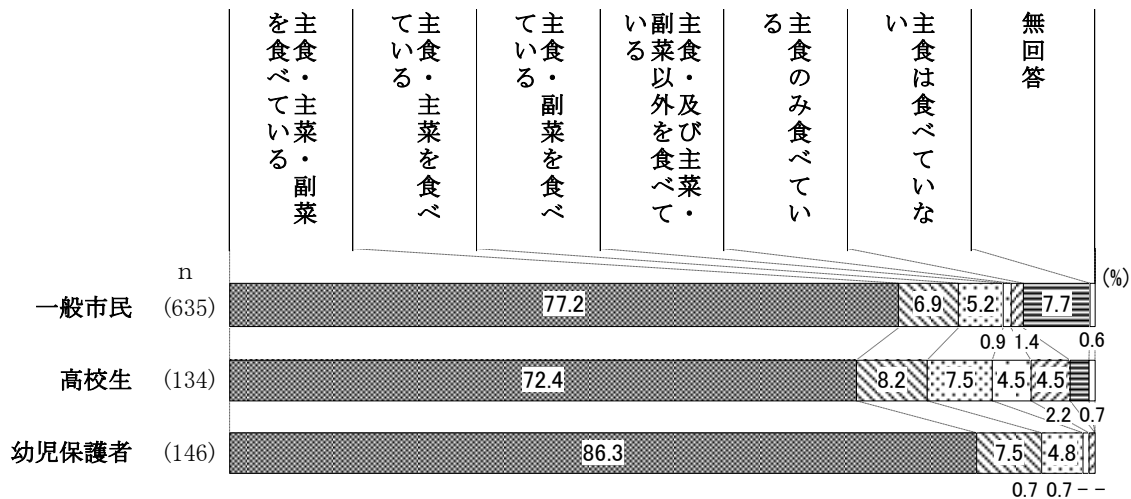
<図表1-7>主に食べている朝食



■ 主に食べている夕食

いずれの対象でも「主食・主菜・副菜を食べている」に比率は集中しているが、特に、幼児保護者では86.3%と高くなっている。(図表1-8)

<図表1-8> 主に食べている夕食



<クロス集計等の概略や補足>

○朝食と夕食の双方を勘案すると、最低1食はバランスよく食べている傾向にある

- ・朝食での主食・主菜・副菜がそろっている状況は低いものの、夕食では「主食・主菜・副菜を食べている」が男性で71.3%、女性で81.3%と多くの方が最低1食はバランスよく食べている。
- ・年齢別でも、夕食は「主食・主菜・副菜を食べている」がいずれの年齢層でも高い。

○高校生の夕食は「主食・主菜・副菜を食べている」が男性で上回る

- ・高校生の性別では、「主食・主菜・副菜を食べている」が男性で80.4%、女性で65.8%と男性が上回る。女性は、「主食と副菜だけを食べている」(9.2%)、「主食・及び主菜・副菜以外を食べている」(7.9%)などに割合が分かれている。

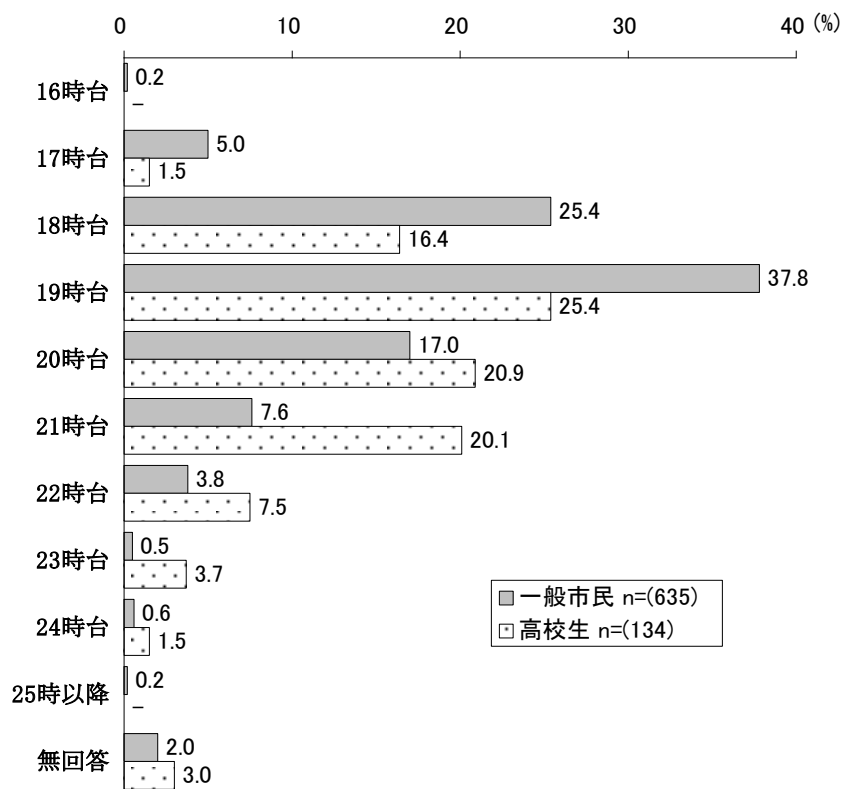
(7) 夕食を食べ始める時間

問 あなたの夕食を食べ始める時間に○を付けてください。(○は1つだけ)

[一般市民・高校生：問4-2]

高校生の方が一般市民よりも全体的に遅い傾向にある。(図表1-9)

<図表1-9> 夕食を食べ始める時間 (単数回答)



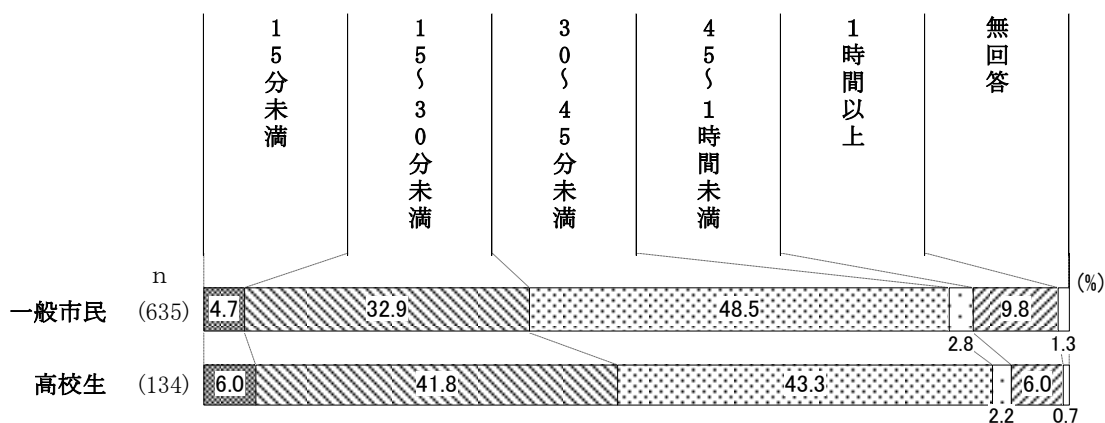
(8) 夕食を食べ終わるまでにかかる平均時間

問 夕食を食べ始めてから食べ終わるまでにかかる平均の時間を記入してください。

[一般市民・高校生：問4-3]

夕食を食べ終わるまでにかかる平均時間をたずねた結果、平均時間は一般市民が30.2分、高校生が27.2分と、高校生の方が3分短く、比率でも、「15～30分未満」は高校生、「30～45分未満」は一般市民の方が高くなっている。(図表1-10)

<図表1-10> 夕食を食べ終わるまでにかかる平均時間



(9) 食事に関する事項の実施回数

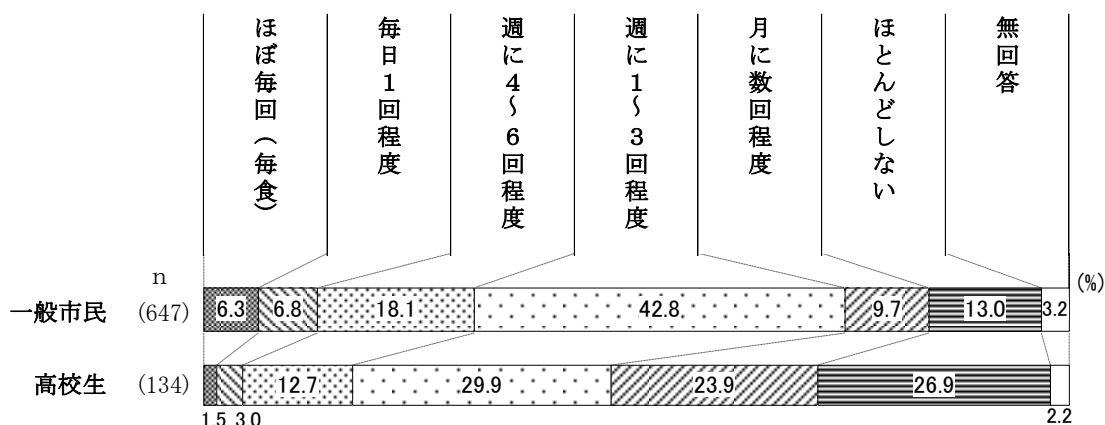
問 あなたは、食事に関して次のようなことをどれくらい行っていますか。
 (○はそれぞれ1つずつ)

[一般市民・高校生：問5]

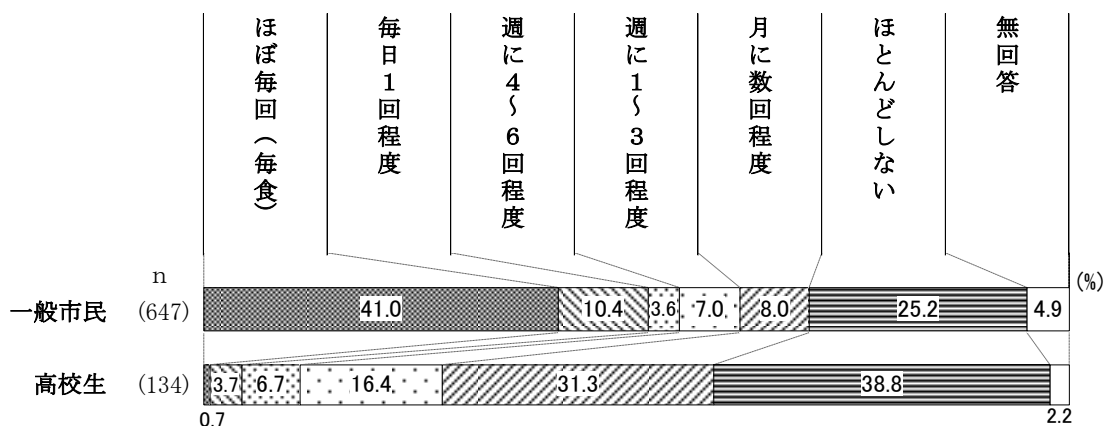
“ア. 買い物”、“イ. 料理”、“ウ. 食事の準備”、“エ. 後片付け”のいずれも、一般市民の方が高校生よりも実施回数が多い傾向にある。「ほぼ毎回(毎食)」での違いに着目すると、特に、“イ. 料理”で40.3ポイント、“ウ. 食事の準備”で25.9ポイント差などとなっている。(図表1-11)

<図表1-11> 食事に関する事項の実施回数

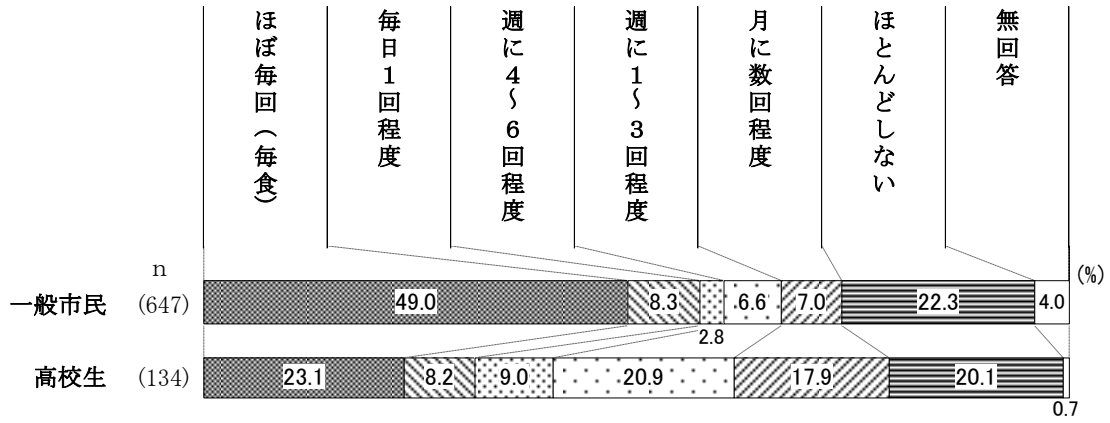
■ ア. 買い物



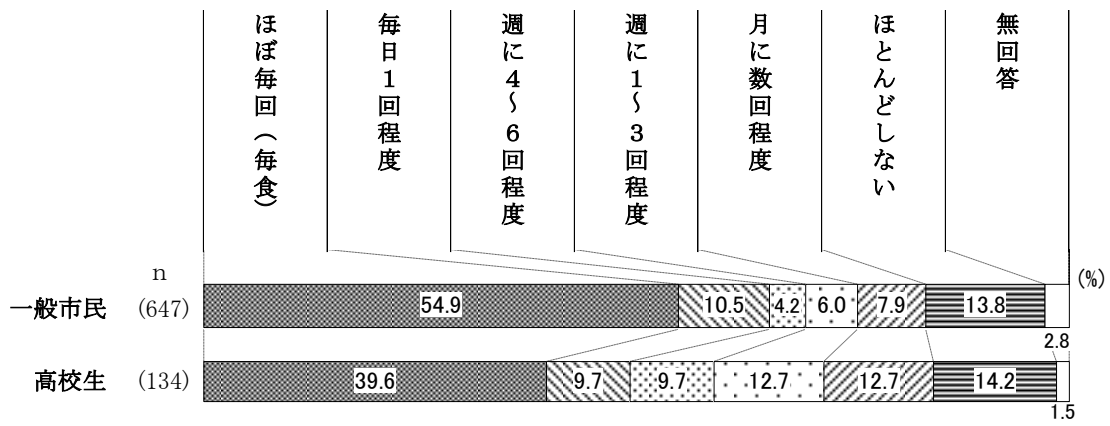
■ イ. 料理



■ ウ. 食事の準備



■ エ. 後片付け



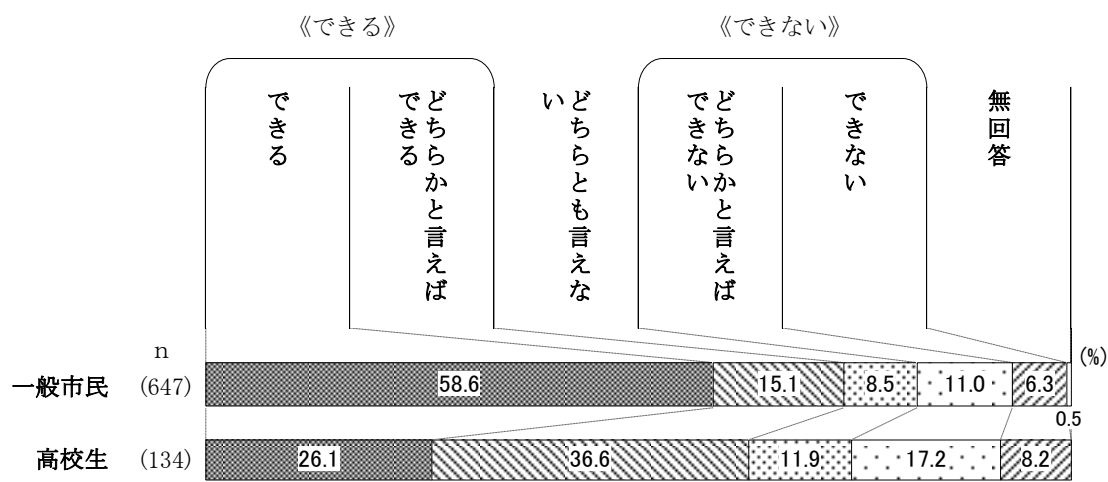
(10) 料理を作る能力

問 料理を作ることができますか。(〇は1つだけ)

[一般市民・高校生：問6]

「できる」は一般市民の方が高校生よりも32.5ポイント高くなっている。《できる》としてみても、一般市民の方が11.0ポイント上回る。一方、《できない》は、高校生が一般市民よりも9.6ポイント高い。(図表1-12)

<図表1-12>料理を作る能力



<クロス集計等の概略や補足>

○性別により料理を作る能力に大きな違い。また男性の50歳以上で《できない》人が多い

- ・一般市民の性別では、《できる》が女性で90.4%であるのに対して、男性は50.8%である。一方で、男性は《できない》が34.2%である。
- ・男性の年齢別をみると、《できない》は50～59歳で42.9%、60～69歳で36.5%、70～79歳で44.3%と高い。
- ・高校生では、《できない》が男性で33.9%、女性で19.8%である。

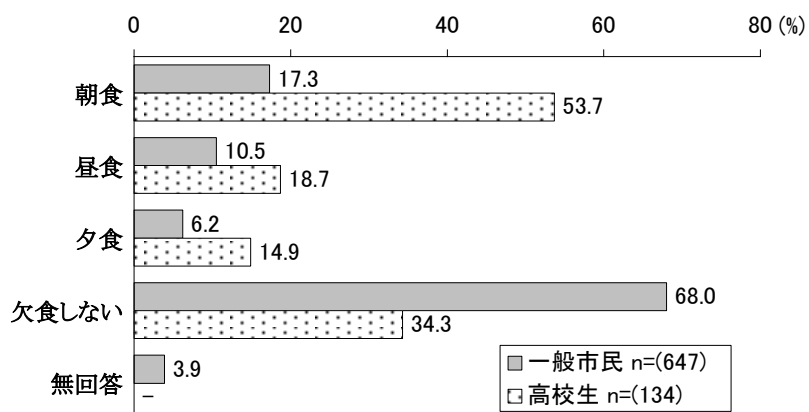
(11) 欠食状況

問 あなたはふだん食事を抜く（欠食する）ことがありますか。（○はいくつでも）

〔一般市民・高校生：問7〕

朝・昼・夕の3食での欠食とも、高校生の方が一般市民よりも高く、特に「朝食」は36.4ポイント差となっている。一方、「欠食しない」は一般市民の方が33.7ポイント上回る。図表1-13)

<図表1-13>欠食状況



(12) 自身が考える上尾市の郷土料理

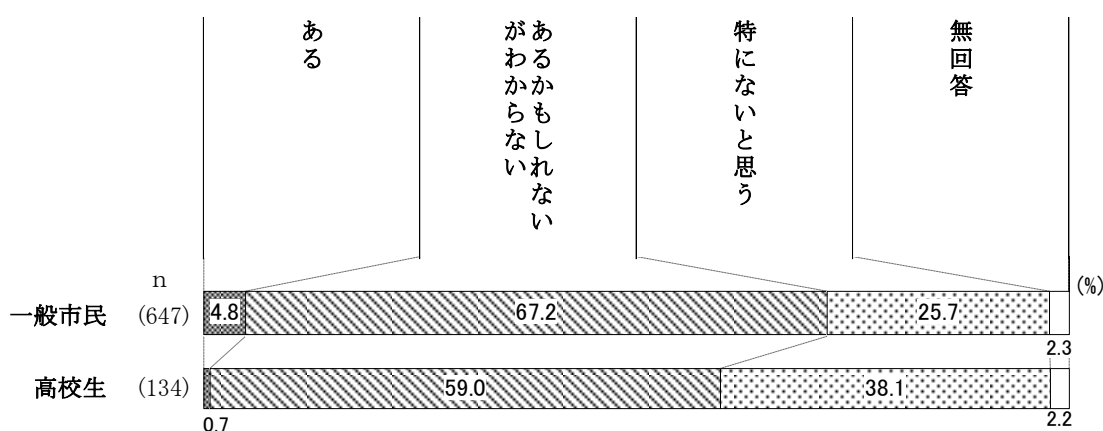
問 あなたが考える上尾市の郷土料理はなんですか（おやつも含みます）。

（○は1つだけ。ある場合は料理名もご記入ください）

〔一般市民・高校生：問8〕

「ある」は、一般市民、高校生ともに低い。両対象とも「あるかもしれないがわからない」に比率は集中しており、一般市民の方が高校生よりも8.2ポイント高くなっている。一方、「特にないと思う」は高校生の方が12.4ポイント高い。（図表1-14）

<図表1-14> 自身が考える上尾市の郷土料理



<クロス集計等の概略や補足>

○性別でも、年齢別でも「あるかもしれないがわからない」が高い。際立ったものがないことが改めて分かったのでみんなが知っている名産（＝郷土料理）を作りたい

- ・性別、年齢別でも特に大きな違いはみられない。
- ・料理名については、一般市民で「冷汁うどん」（7件）、「けんちん汁」（4件）、「小麦まんじゅう」（3件）などがあげられている。また、高校生は1人の回答で、「上尾さぶれ」と「榎本牧場アイス」があげられている。

(13) 外食状況

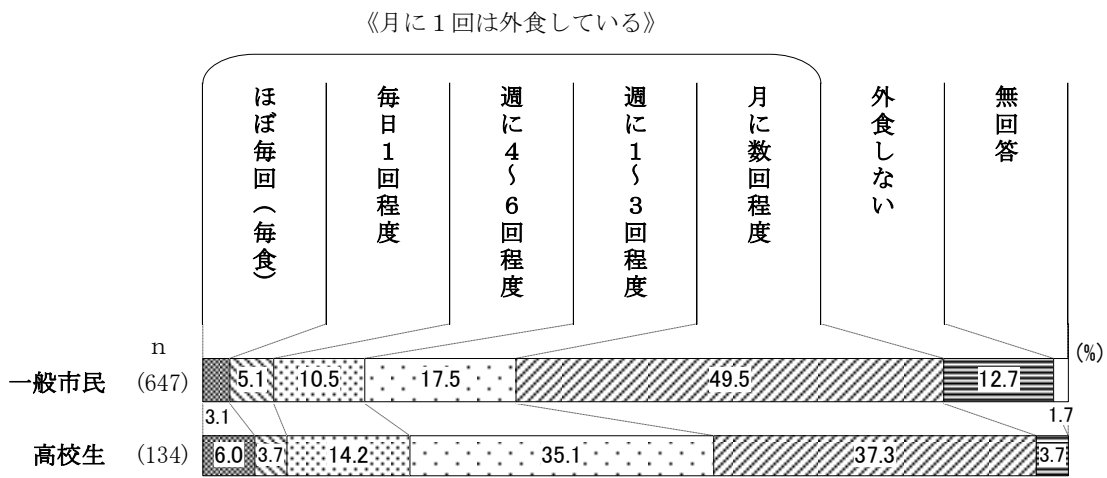
問 あなたはふだん外食することがありますか。(○は1つだけ)

*外食とは、飲食店での食事や家庭以外の場所で出前をとったり市販のお弁当を買って食べる場合とします。例えば、職場で市販の弁当を買って食べた場合も外食とします。

[一般市民・高校生：問9]

高校生の方が一般市民よりも外食の頻度が高い状況にあり、《月に1回は外食している》では10.6ポイント差である。(図表1-15)

<図表1-15>外食状況



<クロス集計等の概略や補足>

○一般市民では、男性の方が女性よりも外食の頻度は高く、年齢は20~40歳代で高い

- ・「ほぼ毎回(毎食)」、「毎日1回程度」、「週に4~6回程度」、「週に1~3回程度」といった週単位の回答では、いずれも男性の方が女性よりも高くなっている。
- ・年齢別では、いずれの年齢でも「月に数回程度」の比率が高い。しかし、「ほぼ毎回(毎食)」から「週に1~3回程度」をまとめた状況、つまり“週に1回は外食”としてみると、20~29歳で63.9%、30~39歳で55.6%、40~49歳で54.0%と過半数である。

○外食している人の市内の飲食店の利用頻度は低い

- ・《月に1回は外食している》と回答した人には、別途、市内の飲食店の利用頻度をたずねているが、一般市民では、「月に数回程度」が58.5%で最も高く、「ほとんど利用しない」が16.2%。高校生では、「月に数回程度」が37.2%で最も高く、「ほとんど利用しない」が27.1%。

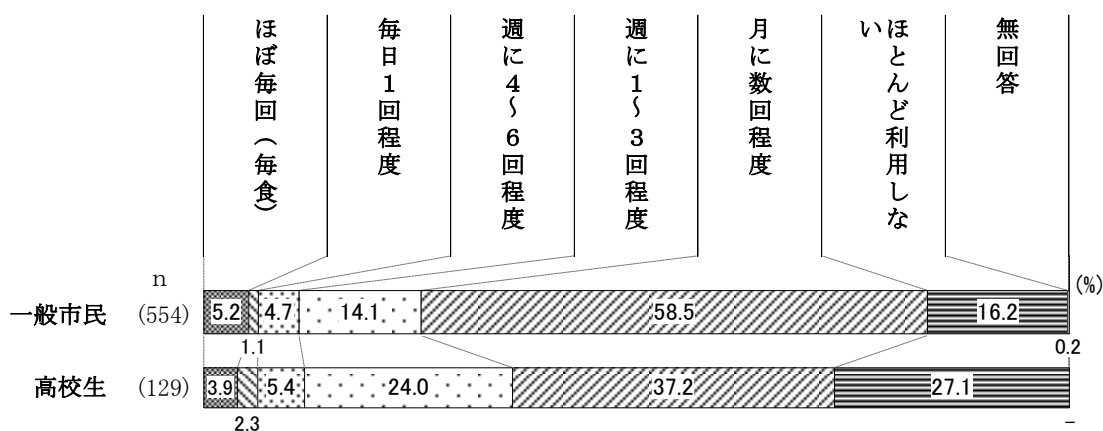
(14) 外食時に上尾市内の飲食店等を利用する回数

問 外食する場合には、上尾市内の飲食店や小売店をどれくらいの回数を利用しますか。
 (〇は1つだけ)

[一般市民・高校生：問9-1]

一般市民、高校生ともに「月に数回程度」に比率は集中しており、一般市民の方が高校生よりも21.3ポイント高くなっている。なお、「週に1～3回程度」は高校生の方が9.9ポイント上回るが、高校生は「ほとんど利用しない」でも一般市民より10.9ポイント高い。(図表1-16)

<図表1-16> 外食時に上尾市内の飲食店等を利用する回数



2 ご家庭などでの食生活について

(1) 野菜料理の摂取量

問 あなたはふだん、1日に野菜料理（野菜を主な材料とした料理。野菜が多く入った汁物も含む）を皿数で考えると何皿食べていますか。1皿は小鉢1コ程度と考えてください。

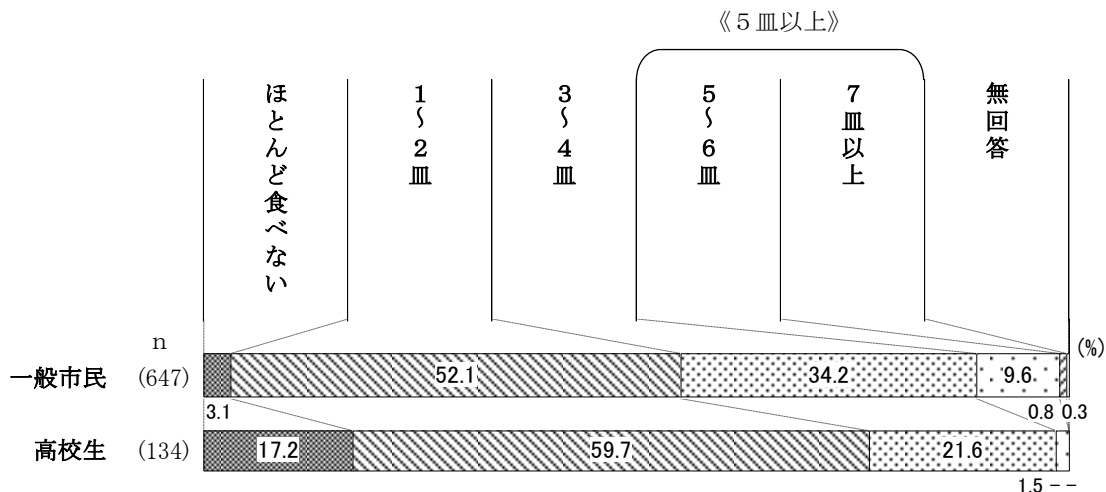
（○は1つだけ）

〔一般市民・高校生：問10〕

一般市民、高校生ともに「1～2皿」または「3～4皿」が高いが、「ほとんど食べない」、「1～2皿」は高校生の方が一般市民よりも高く、逆に「3～4皿」、「5～6皿」は一般市民が高校生よりも高いことから、概して、一般市民の方で摂取量が多い。

特に、野菜の摂取量の目安として推奨されている1日に350g以上について、1皿約70gと換算した《5皿以上》では、一般市民は10.4%だが、高校生は皆無である。（図表2-1）

<図表2-1> 野菜料理の摂取量



<クロス集計等の概略や補足>

○男性の摂取量が少ない傾向

- ・一般市民の性別では、「ほとんど食べない」と「1～2皿」は男性の方が女性よりも高く、「3～4皿」、「5～6皿」、「7皿以上」は女性が上回っている。
- ・性別で《5皿以上》の比率をみると、男性で6.0%、女性で13.4%である。

○20～29歳、30～39歳で特に摂取量が少ない

- ・一般市民の年齢別では、「5皿以上」が20～29歳で2.1%、30～39歳で4.9%と低い。

○高校生は男女とも「1～2皿」以下が7割を超える

- ・高校生の性別でも違いがみられるが、「1～2皿」は男性で55.4%、女性で61.8%といずれも過半数であり、「ほとんど食べない」と合わせると、男女ともに7割を超える。

(2) 上尾市内でとれる農産物

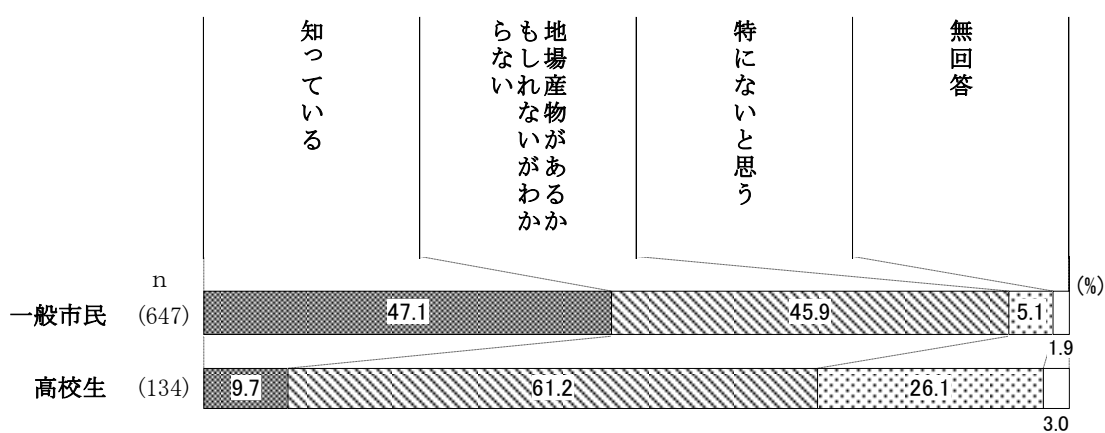
問 あなたは、野菜や果物など上尾市内でとれる農産物（地場産物）を知っていますか。

(○は1つだけ)

〔一般市民・高校生：問11〕

「知っている」は、一般市民の方が高校生よりも37.4ポイント高くなっている。一方、「地場産物があるかもしれないがわからない」は、高校生の方が15.3ポイント上回り、「特にないと思う」でも高校生の方が21.0ポイント高い。(図表2-2)

<図表2-2> 上尾市内でとれる農産物



<クロス集計等の概略や補足>

○性別、年齢別での認知度に違いがある

- ・一般市民の性別では、「知っている」が女性で55.2%であるのに対して、男性で36.8%である（高校生は「知っている」が男性で16.1%と女性よりも高いが、女性の市外の人が多い）。
- ・一般市民では、「ナシ」（183件）、「ブドウ」（122件）、「キウイフルーツ」（112件）など果物の件数が多くあげられた。

(3) 家族や友人・同僚達と食事を摂る頻度

問 あなたは、朝食を家族や友人・同僚達と一緒に食べることがどのくらいありますか。
(○は1つだけ)

[一般市民・高校生：問12]

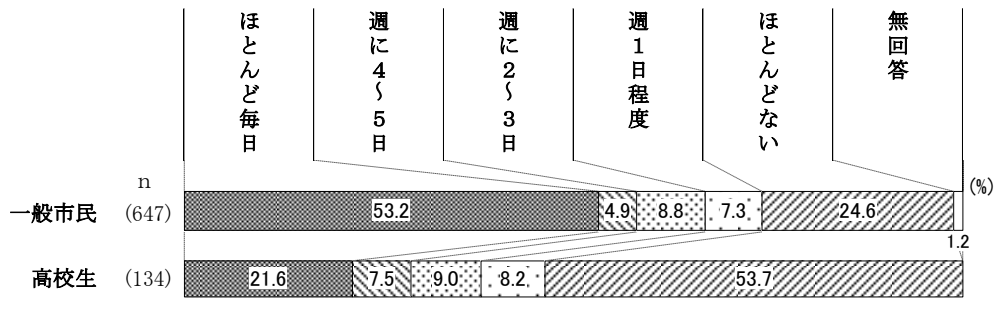
問 あなたは、夕食を家族や友人・同僚達と一緒に食べることがどのくらいありますか。
(○は1つだけ)

[一般市民・高校生：問13]

■ 家族や友人・同僚達と朝食を摂る頻度

「ほとんど毎日」は、一般市民の方が高校生よりも31.6ポイント高くなっている。一方、「ほとんどない」は高校生が一般市民よりも29.1ポイント高い。(図表2-3)

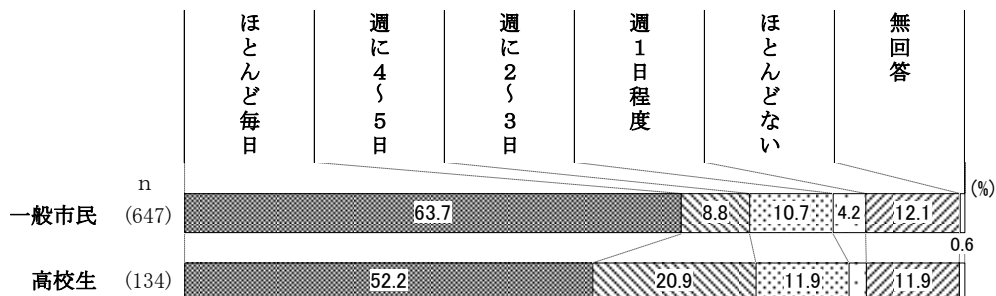
<図表2-3> 家族や友人・同僚達と朝食を摂る頻度



■ 家族や友人・同僚達と夕食を摂る頻度

家族や友人・同僚達と夕食を摂る頻度は、「ほとんど毎日」は幼児保護者では9割以上を占めるが、一般市民では6割台半ば、高校生では5割を超える程度となっている。一方、「ほとんどない」は一般市民と高校生で1割を超えている。(図表2-4)

<図表2-4> 家族や友人・同僚達と夕食を摂る頻度



<クロス集計等の概略や補足>

○夕食を一緒に「ほとんど食べない」は80歳以上で高い

- ・一般市民の年齢別では、「ほとんど食べない」がおおむね年齢が上がるほど高くなり、70〜79歳で19.4%、80歳以上で27.6%にのぼる(80歳以上で同居者がいない人は34.5%)。

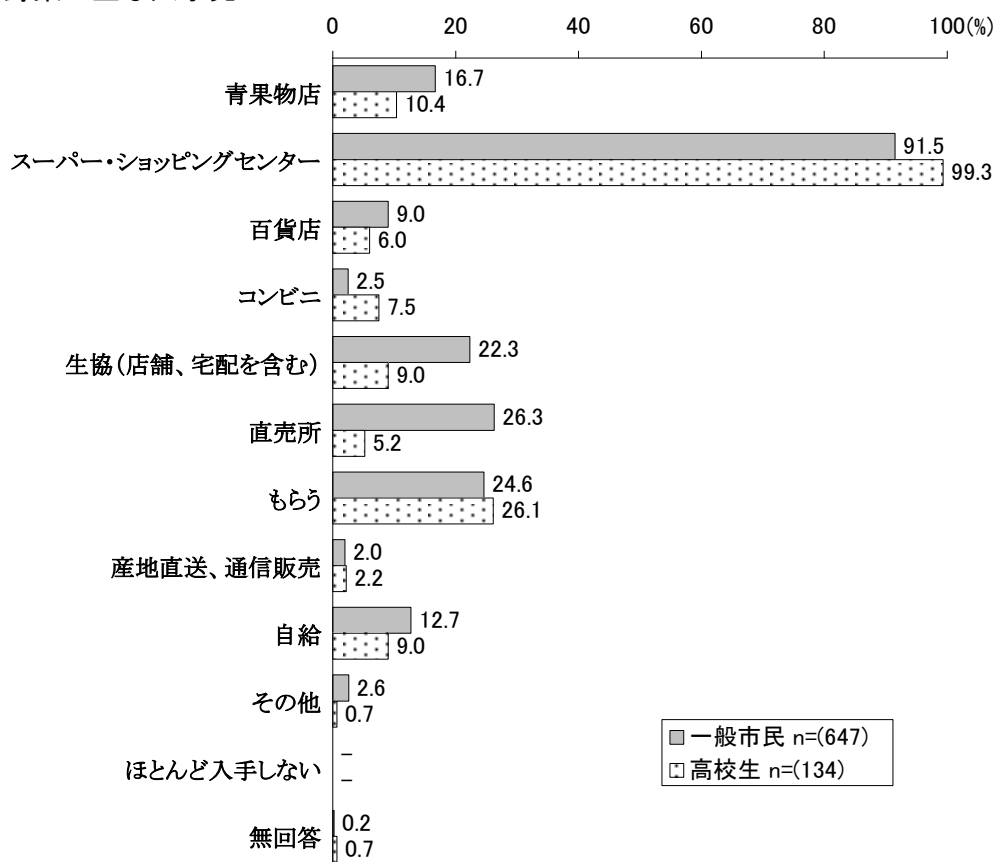
(4) 野菜の主な入手先

問 あなたの世帯では、野菜を主にどこから入手していますか。(〇はいくつでも)

[一般市民・高校生：問14]

野菜の主な入手先は、一般市民、高校生ともに「スーパー・ショッピングセンター」が最も高い。このほか、概して一般市民の方が高校生よりも高い項目の多い中で、「もらう」は一般市民、高校生の違いが小さく、ともに2割台半ばである。(図表2-5)

<図表2-5> 野菜の主な入手先



<クロス集計等の概略や補足>

○「もらう」を通じたつながりは大切にしたい

- ・調査手法及び対象は異なるものの、「平成23年度埼玉県民健康・栄養調査」でも「もらう」が23.9%みられた。市でもその傾向は変わらず、大切な姿である。

○「直売所」は年齢、居住地区別で違いがある

- ・一般市民の年齢別では、「直売所」は50～59歳で31.0%、60～69歳で37.0%と高い。特に、女性の60～69歳に限るとその割合は45.6%に上る。
- ・一般市民の居住地区別でみると、「直売所」は上平で35.7%と高く、この地区は「もらう」でも29.8%と他の地区よりも高い。

3 食育について

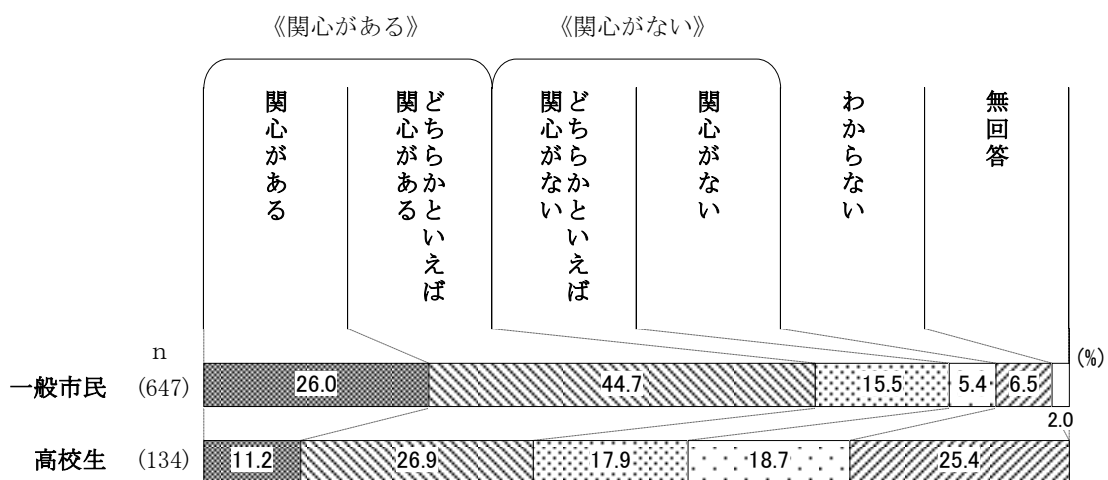
(1) 「食育」の関心度

問 あなたは、「食育」について関心がありますか。(○は1つだけ)

[一般市民・高校生：問15]

《関心がある》は一般市民の方が高校生よりも32.6ポイント高くなっている。一方、《関心がない》は高校生の方が15.7ポイント上回る。(図表3-1)

<図表3-1> 「食育」の関心度



<クロス集計等の概略や補足>

○性別での関心度の違いがあり、男性の20~40歳での関心度が低い

- ・一般市民の性別では、《関心がある》が女性で80.3%であるのに対して、男性は57.9%である。一方で、男性は《関心がない》が32.3%である。
- ・男性の年齢別をみると、《関心がない》は、30~39歳で44.5%、40~49歳で34.2%と高い。

○高校生の女性には「食育」の積極的なPRが必要

- ・高校生では、《関心がある》は男性の方が女性よりも高い。しかし、その背景には、「わからない」が男性で17.9%であるの対して、女性で31.6%という点がある。

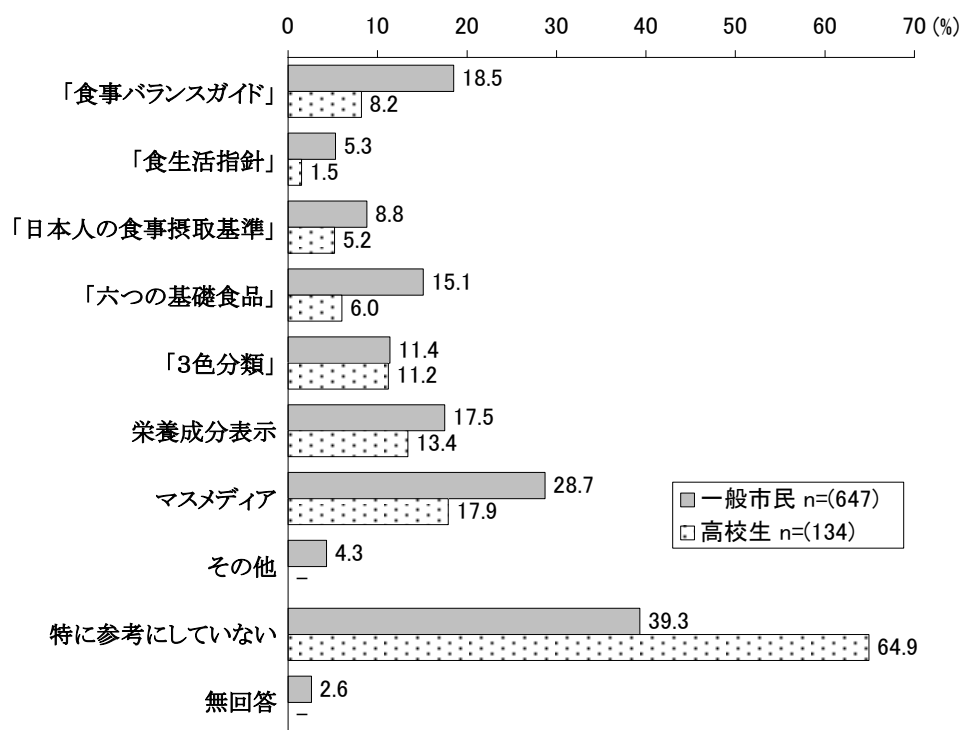
(2) 健全な食生活実践のために参考にする情報

問 あなたは、日頃の健全な食生活を実践するため、どのような情報を参考にしていますか。
(○はいくつでも)

〔一般市民・高校生：問16〕

いずれも一般市民の方が高校生よりも高く、違いが大きいものを列挙すると、「マスメディア」が10.8ポイント、『食事バランスガイド』が10.3ポイント、『六つの基礎食品』が9.1ポイント差となっている。一方、「特に参考にしていない」は、高校生の方が25.6ポイント上回る。(図表3-2)

<図表3-2> 健全な食生活実践のために参考にする情報



<クロス集計等の概略や補足>

○性別での情報への接触状況は大きく異なる

- ・一般市民の性別では、いずれも女性の方が男性よりも高い。特に、「六つの基礎食品」(男性：3.8% 女性：23.8%)、「3色分類」(男性：4.9% 女性：16.7%)での違いが大きい。そのため、「特に参考にしていない」は女性で29.8%であるのに対して、男性で51.5%にのぼる。
- ・そして、男性の40～49歳は「特に参考にしていない」が58.5%にのぼる。

○高校生は女性の方が「特に参考にしていない」が高い

- ・高校生では、「特に参考にしていない」が男女ともに6割台と高いが、内訳は、男性が60.7%、女性が68.4%と女性の方が高い。

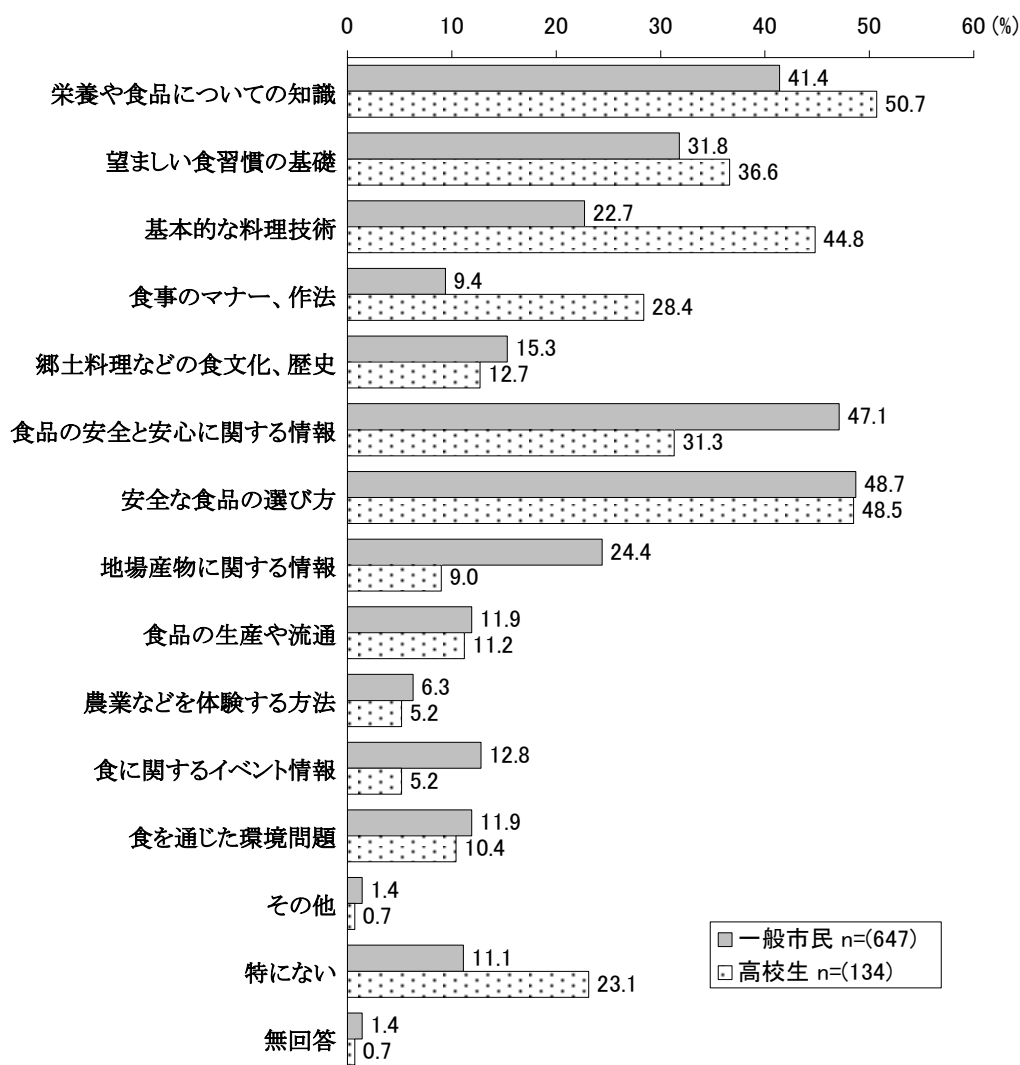
(3) 健全で豊かな食生活を送るために知りたい情報

問 健全で豊かな食生活を送るために、今後、どのような情報を知りたいですか。
(〇はいくつでも)

〔一般市民・高校生：問17〕

一般市民の方が高校生よりも高いものとしては、「食品の安全と安心に関する情報」が15.8ポイント、「地場産業に関する情報」が15.4ポイント、「食に関するイベント情報」が7.6ポイント差などとなっている。一方、高校生が一般市民よりも高いものは、「基本的な料理技術」が22.1ポイント、「食事のマナー、作法」が19.0ポイント、「栄養や食品についての知識」が9.3ポイント差である。(図表3-3)

<図表3-3>健全で豊かな食生活を送るために知りたい情報



<クロス集計等の概略や補足>

○性別でのニーズは大きく異なる

- ・一般市民の性別では、大半で女性の方が男性よりも高い。特に、「食品の安全と安心に関する情報」(男性:41.0% 女性:52.5%)、「安全な食品の選び方」(男性:40.2% 女性:54.9%)での違いは大きい。
- ・年齢別にみたそれぞれの上位2項目は次のとおり(特になし、無回答は除く)。食の安全性が叫ばれている中で、20~29歳における食の理解に向けたニーズもみられる。

20~29歳	1位	栄養や食品についての知識	57.4%
	2位	基本的な料理技術	44.7%
30~39歳	1位	栄養や食品についての知識	54.3%
	同率1位	安全な食品の選び方	54.3%
40~49歳	1位	安全な食品の選び方	46.9%
	2位	栄養や食品についての知識	41.8%
50~59歳	1位	安全な食品の選び方	51.0%
	2位	食品の安全と安心に関する情報	49.0%
60~69歳	1位	食品の安全と安心に関する情報	60.4%
	2位	安全な食品の選び方	48.1%
70~79歳	1位	安全な食品の選び方	50.8%
	2位	食品の安全と安心に関する情報	43.5%
80歳以上	1位	安全な食品の選び方	48.3%
	2位	栄養や食品についての知識	44.8%

○高校生食の理解に向けたニーズはみられる

- ・性別にみたそれぞれの上位2項目は次のとおり。

男性	1位	基本的な料理技術	55.4%
	同率1位	安全な食品の選び方	55.4%
女性	1位	栄養や食品についての知識	50.0%
	2位	安全な食品の選び方	43.4%

4 健康や生活について

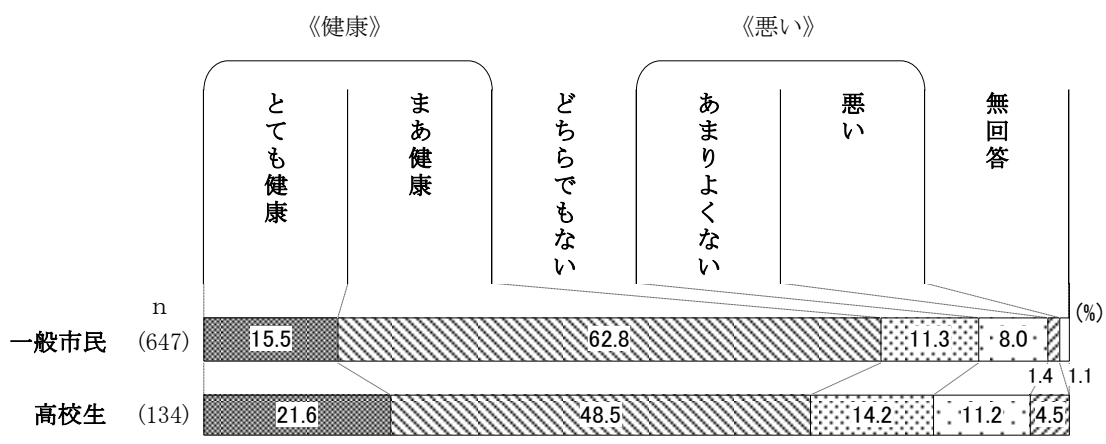
(1) 健康状態

問 現在の健康状態はどうですか。(○は1つだけ)

[一般市民・高校生：問21]

「とても健康」は、高校生の方が一般市民よりも6.1ポイント高いが、「健康」としてみると、一般市民の方が8.2ポイント上回っている。一方、「悪い」は、高校生の方が一般市民よりも6.1ポイント高い。(図表4-1)

<図表4-1>健康状態



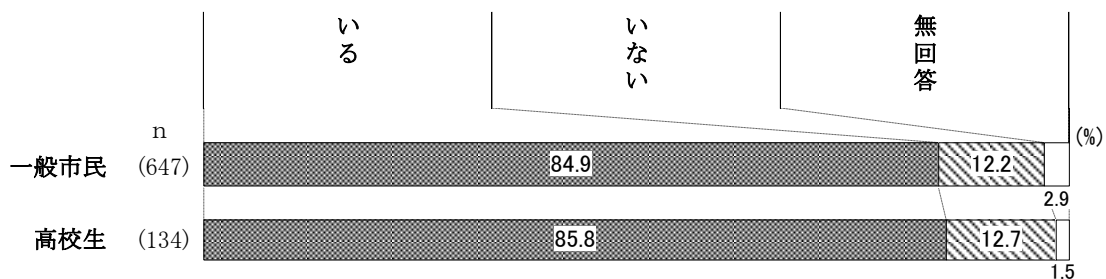
(2) 相談相手の有無

問 必要なときに相談できる相手がありますか。(○は1つだけ)

[一般市民・高校生：問22]

「いる」は一般市民、高校生とも8割台半ばでおおむね並ぶ。(図表4-2)

<図表4-2>相談相手の有無



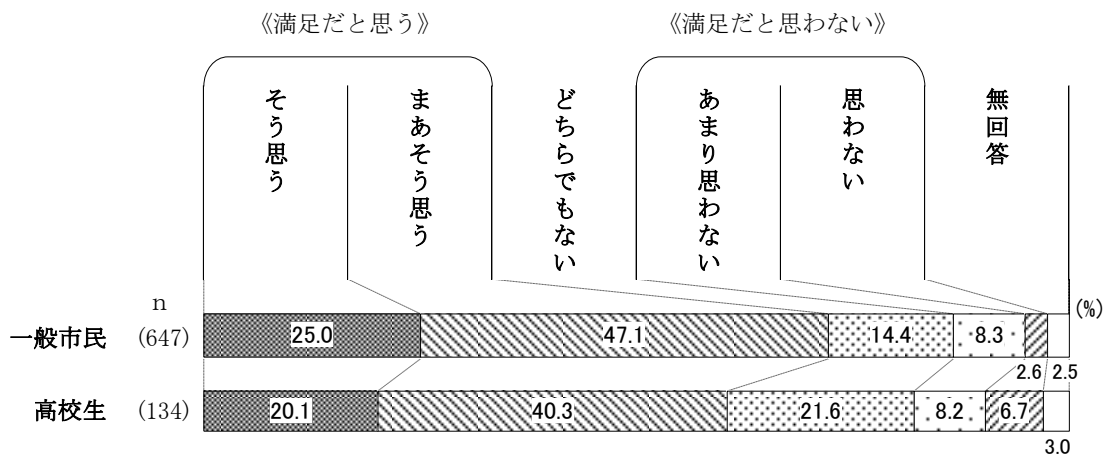
(3) 現在の生活に対する満足度

問 現在の生活に満足していますか。(○は1つだけ)

[一般市民・高校生：問23]

《満足だと思う》は、一般市民の方が高校生よりも11.7ポイント高くなっている。なお、《満足だと思わない》での特に大きな違いはみられない。(図表4-3)

<図表4-3>現在の生活に対する満足度



上尾市 食育に関するアンケート調査
報告書

平成25年3月

【発行】 上尾市 健康福祉部 健康推進課
〒362-0074 上尾市春日2-10-33
☎ 048-774-1411 (直通)

○この冊子は、古紙を利用した再生紙を使用しています。